

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	まちなかハウスぽっけ		
○保護者評価実施期間	令和 7年 10月 24日		～ 令和 7年 11月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和 7年 10月 24日		～ 令和 7年 11月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 1月 17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の配置数や専門性を保護者から評価いただいている	職員数をできる限り余裕を持った配置にしている。利用者の年齢が上がってきており、保護者の悩みがより社会や将来に向けての内容に変化し、それに対応できるように幅広い知識を持てるような会議や研修ができるように心掛けている。	職員の一部が知識を持つのではなく、全体への周知の機会を常に持つ。変化する福祉制度や世の中の流れを的確に把握できるようアンテナを張り、研修等に参加し積極的な情報収集をする。
2	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮を評価いただいている	帰りの迎えは基本的に保護者に事業所内に入ってもらい、子どもの様子を見ていただいたり、活動の詳細や様子を細かく担当職員から説明するようにしている。保護者ニーズを引き出す機会とも捉えている。	保護者との貴重な対面の場面を、連絡帳や電話では把握しきれない不安や困り感を感じる機会にしていく。できたことやちょっとした嬉しさを保護者と共有できる機会にしていく。「悪いことを伝える機会」<「良いことを分かち合える機会」を目指す。
3	職員の資質向上のため、研修の機会を設け、スキルアップにつながっている 活動プログラムの立案をチームで行っている	外部研修に皆が偏ることなく参加できるようにしている。研修のための時間を確保するための人員配置を行っている。職員の得意分野を活かしながら、各々の苦手を補える体制を作っている。	自己評価に重点を置き、どの分野でスキルアップしたいのかを知り、自主的な研修参加を推進する。学んだことを他職員に伝え、再確認と周知の機会を必ず設け、アウトプットに重点を置く。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていない	利用者の年齢が高くなっており、事業所内で全員が1日一緒の場所で過ごすことは厳しくなっている。	少人数グループでの活動を主としており、外出支援と室内での療育を組み合わせ、様々なプログラムを実施し、時間差を設けることで狭いスペースをうまく使えていると思っている。活動内容が単調にならないような工夫を引き続き考えていきたい。
2	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切でない	バリアフリー化については大規模な改修は考えておらず、既存の状態に対応していくことを主に考えている(トイレへの簡易手すり設置は対応済み)。	多少の不便さがあることで、身体機能の発揮・アップを意図していることを伝えていく。慢性的に安全性に問題があると判断した場合には、早急に対応していく姿勢でいる。また、職員の身体介助のスキルアップを図る。
3	児童クラブや児童館との交流や障がいのない子どもと活動する機会をあえて設けていない	インクルージョンの観点から推進しなければならない活動なのかもしれないが、機会を設けて実行することで、今の段階で自事業所の子どもの安全性や人権を守り切れるかは課題であり、かなりの準備を経て活動を共有する場が設けられるべきだと思っている。保護者からの要望もない。	現在は準備段階であり、長期的にインクルーシブな社会に向かうために、コミュニケーション能力の向上、マナーやルールの習得などを念頭に置いた支援を行っている。地域の方に事業所や通所児童を知っていただくことや、公共の場に出ることは、活動を通じて実践している。受入側(広い意味の社会)の準備も整っているとは思わず、互いの歩み寄り課題と思われる。